

令和3年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	✓
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	
昨年度までの“環境整備”を経て、今年度より事業化に取り組む	
昨年度までの“環境整備”と“支援チーム派遣（事業化支援）”を受けて引き続き事業化に取り組む	

活動団体名：佐渡市

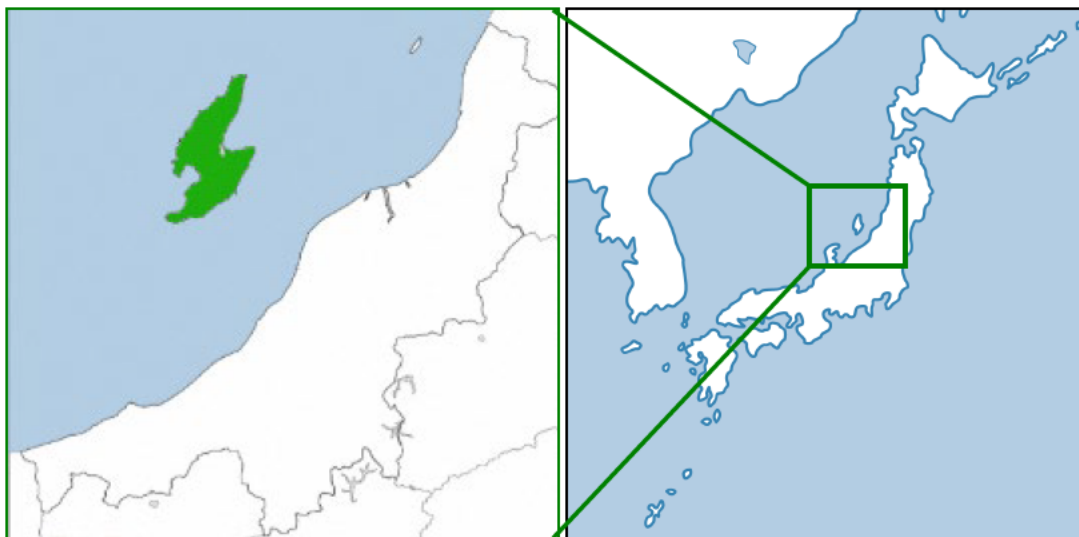
活動地域：佐渡地域

活動におけるテーマ・キャッチコピー

佐渡でふれあういのちのつながり

～人とトキが暮らす島を孫の世代へ～

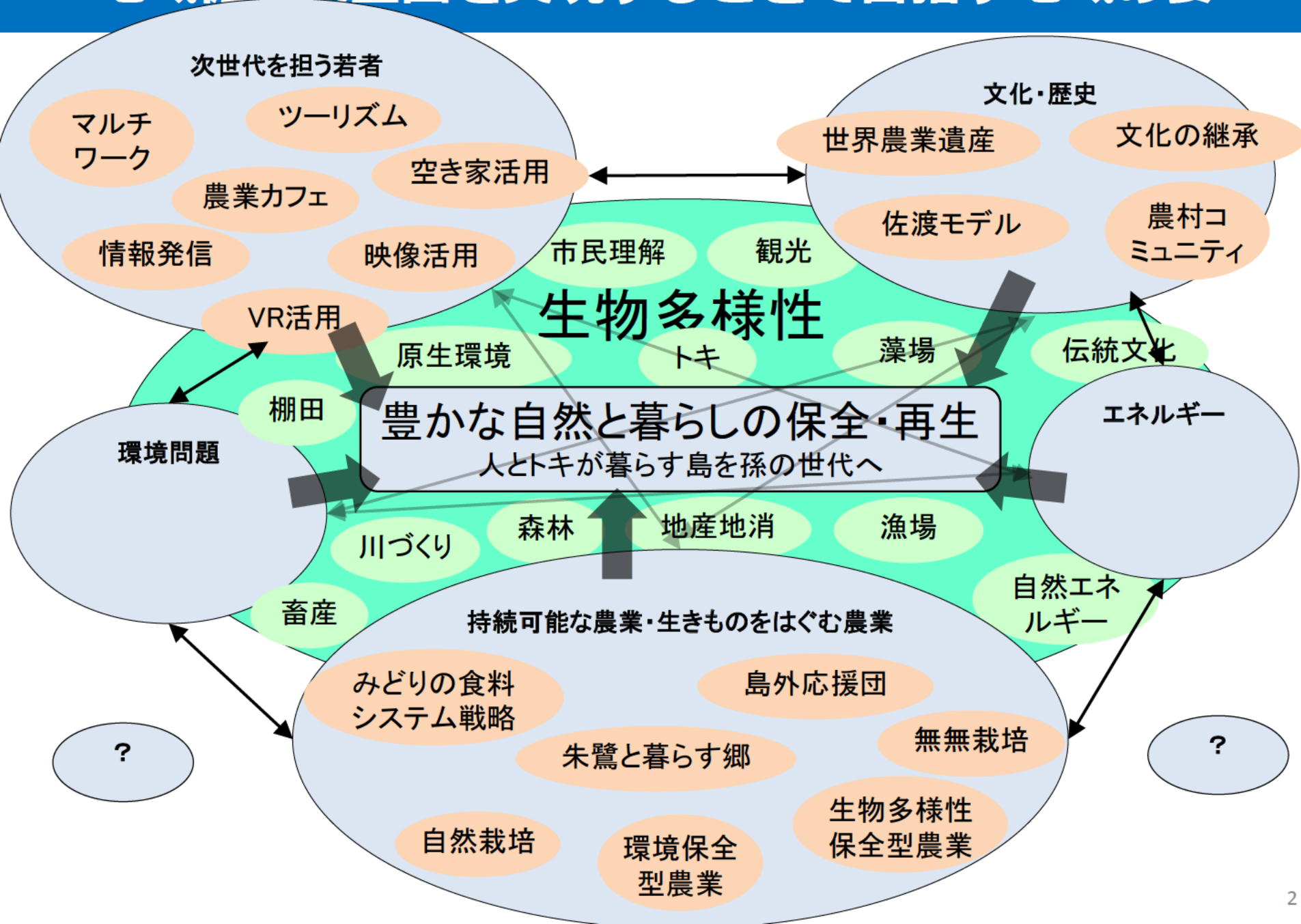
活動団体紹介



面積	855km² (東京23区の約1.4倍)	人口	2003年 7.1万人	2021年 5.2万人
広ぼう	東西の長さ 33km 南北の長さ 60km	高齢化率	2003年 33.8% (19.5%)	2020年 42.5% (28.7%)
周囲	280km	合計特殊出生率	2003年 1.67% (1.29%)	2019年 1.49% (1.36%)
最高峰	1,172m (金北山)	市内総生産・実額	2003年 2,454億円	2018年 1,724億円

※カッコは全国平均

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



地域のありたい未来の実現のために **今年度取り組んだこと**

○ 勉強会の開催

10/29 GIAHS認定10周年記念フォーラム

(トキ・生物多様性・持続可能な農業について 勉強会)

11/21 ローカルSDGsシンポジウム

(地域循環共生圏 勉強会)

○ 意見聴取

10/30 GIAHS認定10周年記念フォーラム

(4分科会にて、意見交換)

○ 関係者ワークショップ^o

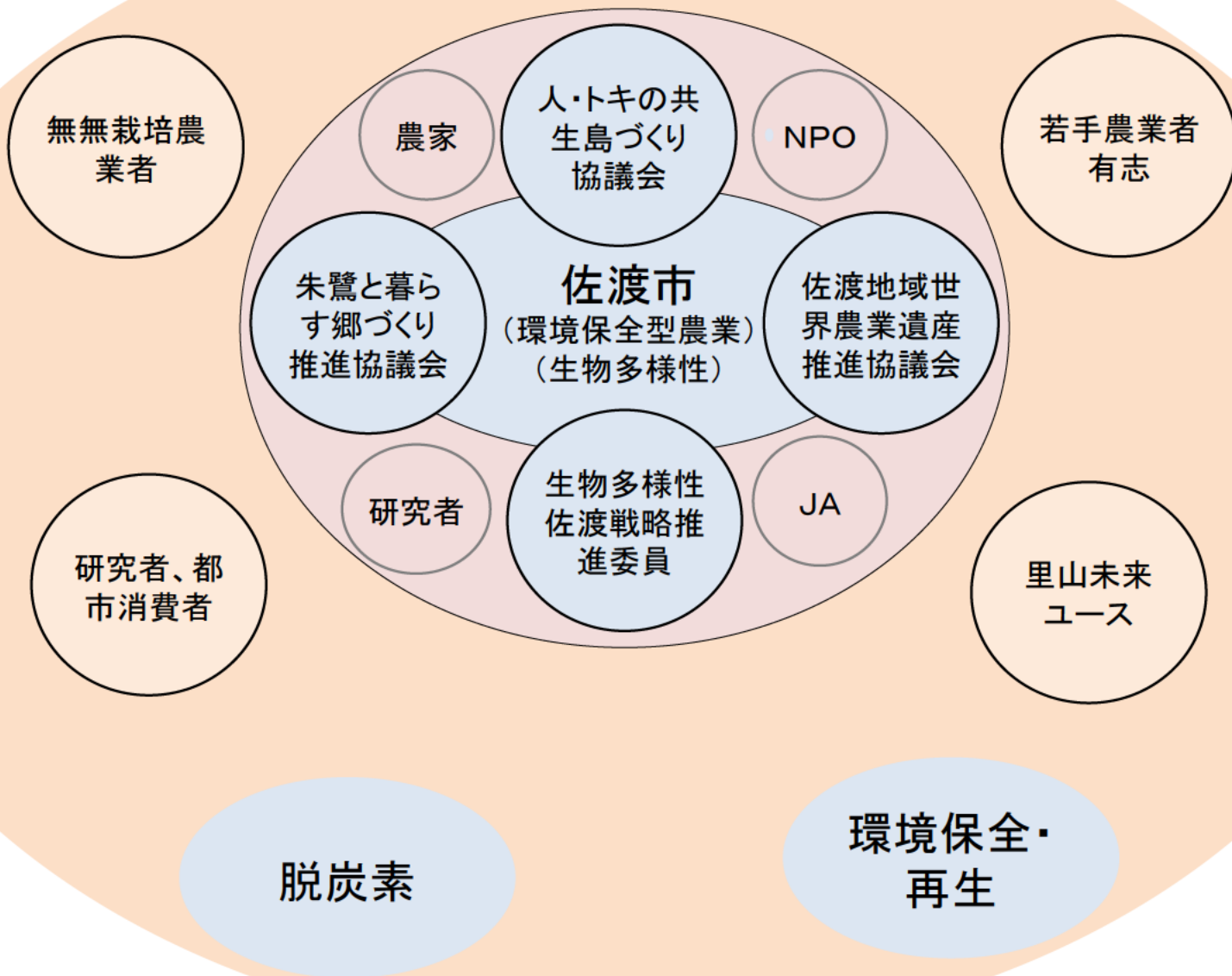
3/12 他分野を広く含めた意見交換会を実施

○ 里山未来ワークショップ^o

8/16～ 佐渡に関する高校生、大学生によるワークショップ、アイデア提案

議題：「農村の未来を考える」

取り組みを通じた地域プラットフォームの変化



取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

- 取組をとおして、各分野ごとに大小それぞれの問題点が発生している状況が見えてきた。
例：文化の継承…担い手不足、トキ認証米…トキの餌場確保と普及拡大不足
トキビオトープ…活動者の高齢化加速
相対的に、人口減少・担い手不足が叫ばれている
- 半面、次世代を担う若者によるワークショップについては、多種多様なアイデアが選出されている。
- 狭い範囲の生物多様性でとらえていたが、今後はエネルギーなど含めた環境・経済・社会と拡大し推進する

今後の展望

▶ 地域プラットフォームの構築に向けた取組：

本年度実施してきた、生物多様性を中心して取組を拡大して、多方面に向けたプレイヤーの参画や仲間づくりを行う。

当市においても将来推計等で、人口減少が予測されている。この点も、日本の課題先進地ともいえる。環境・経済・社会の面において地域の特色あるシナリオ作成に向かう。